

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4074400286		
法人名	有限会社 オプティマムケア		
事業所名	グループホーム朝茶		
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町長者原西二丁目6番50号 (電話)092-939-3435		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果確定日	令和5年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム朝茶の基本理念「地域との絆を深めて安心安全、人格尊重と思いやりのある介護」を毎日の朝礼時に唱和し、地域住民の方々との交流を深め、地域に根ざしたグループホームとなるように心掛けています。また、職員ミーティング等を利用して人格尊重を強く提唱し、日々ご利用者がその人らしく過ごす事が出来るように介護職員一同が切磋琢磨しながら真摯取組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅地として発展してきた地域の一角に位置し、多くの車が行き交う道路からは少し奥にあるため、静かな環境となっている。2階建ての建物の1階で、食堂、リビングを囲むように居室が配置されている。現在はコロナ禍のため中止しているが、地域の高齢者の健康や認知症予防のため、公民館で脳トレ教室を継続的に開催していた。事業所には長く勤めているスタッフが多く、その経験を日々の介護に活かしたり、ノウハウを経験の浅い職員と共有したりと、介護力の向上へと繋げるよう努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの中に基本理念を掲示し、朝の申し送り後、管理者も職員も一緒に理念の唱和をすることで意識付けを行っています。また、新職員にもオリエンテーションを行い理念の共有を図っている。	事業所には地域密着型の視点に沿った独自の理念があり、事業所内に掲示するとともに、毎日ミーティングで唱和している。理念にある「人格尊重と思いやりのある介護」はスタッフに共有されており、一人ひとりに寄り添う支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のように外出や地域コミュニティの交流の場は減ってしまったが訪問診療や訪問理容室などの他業種の定期的な交流は続いており来所の際はしっかりと交流ができています。	事業所は自治区会に加入し、地域で行われる活動については、区長が事業所に直接来て行事の案内をする等、地域との関係性ができている。地域の清掃活動の際には、事業所の駐車場を活動の拠点として開放している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献として事業所が公民館で行っている地区のご高齢者を対象に脳トレーニング教室を継続しており、地域のご高齢者の暮らしや健康に役立っていると思う。(今現在はコロナ対応のためお休みしています。)	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回役場(包括支援)、区長、民生委員、家族代表などに声をかけ、状況報告や研修報告を行い、地域行事の案内を含め頂いた意見は、ミーティングで職員に伝達している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、感染対策のため書面で開催している。家族、町内会区長、民生委員、福祉委員、地域包括支援センター職員に対して、事業所の状況や感染対策、研修内容等を報告している。また、報告書に問い合わせ先を記載し、構成員の意見や要望を取り入れるようにしている。	現在は書面開催としているため、意見交換がより活発になるように、アンケート用紙やリモートの活用、少人数での開催等、意見交換の場を検討し、サービスの向上に向けての取組を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の包括支援の職員に運営推進会議へ参加いただき連携を図ると共に、認定調査やオムツ利用状況調査では、詳しい状況を報告している。また、町の介護保険事業計画策定協議会へ委員としての参画や役場主催の福祉ネットワーク作りにも参加し、協力連携の強化を図っている。	行政に対しては、メールや電話、窓口へ出向く等して連絡をとっている。行政からの依頼により、地域ケア会議への参加や介護保険事業計画策定協議会、福祉ネットワークへ参加した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ取り組んでいる。マニュアルを整備し、例外の3要件を満たす場合も管理者がチェックシートで検討するとともに全員がミーティングで話し合い、常に経過観察の結果を記録し拘束解除に向け再考している。また、定期的に行っているミーティングでもスタッフの身体拘束の知識向上に努めている。	身体拘束ゼロ宣言を掲げて取り組んでいる。玄関は基本的に日中は施錠していない。町の介護保険課に相談し、防犯対策のため、入浴介助等で人員が手薄となる際に短時間施錠することがあるが、利用者が開けることのできる鍵である。内部研修を実施しており、研修記録を作成している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員ミーティングでは、殆ど毎回虐待について研修し、不適切なケアが無いかも意見を出し合って確認している。また、各職員は、定期的に実施している自己評価でも、不適切なケアについて気付いたことは記入しもらい、見過ごされないように虐待防止を徹底している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については新型コロナウイルスの影響により外部研修は参加出来ていないが、定期的に行っているミーティングの中で全職員に研修を行い、グループホームにおける権利擁護について分かりやすく事例を挙げ、理解を深めている。	事務所内に成年後見制度のパンフレットを準備し、必要に応じてパンフレットを用いながら家族等に説明している。また、内部研修を行っており、研修に参加できない場合は、資料を回覧して全職員が理解を深められるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明は、利用者と家族に丁寧に行っており、家族と十分に話し合い理解納得してもらっている。また、家族会でも重ねて説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の思いを大切に受け止め、利用者の状況報告や物品の持参をお願いする際にご意見や要望はないかを必ず聞くようにしている。要望があれば職員に伝達し、要望に応えられるように実践している。	利用者の意見や要望は、できる限り実現させたいという事業所の方針が前提としてあり、気に入った湯呑を使いたいといった利用者の希望や、熱め、ぬるめといったお茶の温度にも個別に対応している。コロナ禍で家族から要望のあった面会については、感染状況により、オンラインでの面会、ガラス越しの面会、直接面会と、その時々で状況で臨機応変に対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場と兼務しており現場の状況を把握している。職員の意見に耳を傾けるように努めている。意見や提案も取り入れ、業務の質の向上に努めている。	代表者や管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。シフトや勤務時間の相談等、できる限り職員の個別の事情に配慮し、希望を受け入れるようにしている。職員から毎日提供するおやつを様々な食形態に対応できるものにして欲しいといった意見があがり、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は毎年健康診断を受け、健康を第一に考え体調不良時でも直ぐに交代できるようにしている。また、キャリアパス要件書を整備し、処遇改善加算Ⅰを取得、努力する人が報われる職場環境を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	現職員の中には、60歳以上の方が15名以上、また国外出身の職員もおり、介護に熱意のある方であれば採用している。話し合いの場でも自由に発言ができ、研鑽を積みながら能力を発揮出来るようにしている。	事業所には、幅広い年齢層の職員がおり、採用選考では、性別や年齢により採用対象から排除することはない。定年は設定されているが、継続雇用を希望すれば、引き続き働くことが可能となっている。資格の取得についても、シフトを調整する等して、事業所としても資格取得をバックアップしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念にも人権尊重を第一に掲げ、毎日管理者、職員一緒に唱和し、ミーティングでも事例を検討して取り組んでいる。また、外部研修にも参加し啓発を心掛けている。	職員に対して、定期的に人権に関する研修を実施している。研修記録を整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング資料において、現状での注意点や、認知症介護を考える上での多角的な捉え方のアイデアを提供している。外部研修の案内も声をかけし、職員自らが参加し、介護福祉士試験にも挑戦している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場主催の福祉ネットワークにも参加し、同業者との交流も行い、介護サービスの質の向上を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	たとえ家族と本人との意見が異なっても本人の話しを一番に傾聴し、本人が話しやすい環境を作り、どの職員とでも安心して話せるように心掛けている。例えば本人と職員とが一对一で話せる入浴時などによく悩みを聞いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時から家族の悩みなどの相談に応じ、入居の際の留意点や入居後の対応など家族とこまめに話し合っている。それぞれの家族の個別の悩みや要望に真摯に向き合うことで家族との信頼関係を築いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が皆同じように生活しているわけではなく、個々の過ごし方や個々の運動機会を持ちながら生活していることを本人とご家族に情報提供し、安心して自分らしい生活を送ることができる環境を提供している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は今現在の利用者の体調を把握し、家事など出来る事は一緒に取り組んでいる。時には利用者からいたわりの言葉をかけていただくこともある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は、こまめに電話やメールでも報告している。本人の好物を持参して貰ったり、曾孫さんの顔が見たいとの要望にも家族に連絡し、会いに行かれたりしながら家族との絆がいつまでも築かれるように連携している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響によりご家族との外出や直接の面会ができない状況が続いており、そんな中でも安心して過ごしていただけるようにガラス越し面会など行い支援に努めている。	これまで大切にしてきた友人との関係が途切れないように、コロナ禍でもガラス越しの面会を継続していた。友人から手紙が届くこともあり、年賀状や暑中見舞いは、職員と一緒にできる限り書くようにしている。コロナ禍前は、定期的に家族と一緒に馴染みの飲食店に通う利用者もいた。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に歌を唄ったり、玄関先でお茶タイムを楽しんだり、車椅子の方を他利用者が押して散歩に行ったり、みんなの洗濯物を畳んで貰ったりしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も入院先へ顔を出し、家族に電話して状況報告したりアドバイスしたりと支援を続けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	積極的に声かけして、言葉や思いを聞き取るようにし、必ず本人の希望を第一に聞いて入居中の暮らしが居心地良い生活となるように尊重している。また、意思疎通が困難な方は、注意深く観察し、食事介助も表情や咀嚼・嚥下状態を見ながら少しでも本人の意向をくみ取るように努めている。	これまでの情報を元に利用者の好きなことや嫌なことを把握し、日々の関わり方に配慮している。入居時より意思疎通が困難な方についても家族からの情報を元に日頃の表情や行動を観察しながら接するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から思い出の写真をもってきてもらい、一緒に拝見しながら本人の人生観や話題づくりを心掛けている。また、入浴後は使い慣れた整髪料や乳液で身だしなみにも満足いただけるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、月1回のミーティングで本人の希望、家族からの希望、職員の意見も聞き入れ、本人の持てる能力も見極めながら、出来ることは積極的に一緒に行うなどしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りを踏まえ、月1回のミーティングでは、本人、家族、職員、医師の意見も取り入れ、関係者全員で介護計画を作成と把握に努め、状態の変化にはこまめに家族へ報告、説明をしている。	計画作成担当者が利用者や家族の要望を聞き、専門職の意見を取り入れながら介護計画を作成している。1ヶ月に一度モニタリングを行い、計画の内容を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ホーム日誌、生活パターン表、介護記録で日々の状況を把握し、その人に沿ったケアを目指している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診は、受診票で詳しい情報の提供や、依頼があれば家族に代わって受診の付き添いも行っている。常に報告・連絡・相談を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を活用したり、行きつけの美容院へ行かれたり、近所へ一緒に買い物に行ったりとその日の気分などを見ながら豊かに過ごせることを心掛けている。また、地域からの行事参加呼びかけにも、1人ひとりの状況に応じて参加し、楽しんでいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に利用者や家族の馴染みのかかりつけ医を勧めている。変更を希望される場合は利用者本人が一番合った医療機関を紹介している。また、訪問診療を希望される場合は前もって情報の提供を行ったり、必要に応じて受診に家族と同行したり、代行したりしている。特に情報提供は現在の状況をしっかり伝えるようにしている。	受診時の送迎は、状態に応じて施設車両にて行っている。付き添いは家族へお願いするが、日頃の状態を記載した受診表を持参し、スムーズに受診できるようにしている。また、受診後は医師のコメントを受診表に記入いただき、情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも見逃さないように看護師へ伝え、日々の体調管理を行うと共に、主治医への情報提供により連携しながら利用者の健康維持に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には管理者、または看護師が密に情報共有をおこなっている。入院中にも安全に残存能力を保持しながら過ごせるように連携をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明し、また家族会でも再度説明している。利用者の状態の変化は、主治医、看護師、職員、管理者の全員で意見を出し、家族の協力の下、今後の方針を共有している。	事業所の往診医が24時間体制であり、重度化や看取り期においても安心して過ごせる環境を整えている。また、必要に応じて訪問看護サービスとの連携も行っており、利用者や家族の意向に沿って支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、必ずこのテーマを職員ミーティングで取り上げ緊急時対応表も作成している。リクライニング式の車椅子など寝たきり度が高い方でも優しい移動ができるように工夫している。これからも勉強会などに参加し、安全で安心できる実践力を身につけるように心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の避難訓練は、年2回消防署員の指導をいただき行っている。運営推進会議でも民生委員や区長及び家族代表にも避難訓練の結果や避難場所の説明を行っている。	消防計画に基づき、夜間想定を含めて年2回、避難や消火器の取り扱い等の訓練を実施している。非常食は3日分備え、備品についてもすぐ持ち出せるように事業所内に保管されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重を基本理念とし、毎朝唱和して介護業務に臨んでいる。利用者の声にも傾聴し、誇りやプライバシーを大切にし羞恥心などを大切にする介護に努めている。	排泄や入浴時の介護に際しては羞恥心に配慮し、失禁等があってもさりげなく対応するように心がけている。年1回、内部研修を行っており、尊厳のある対応が保たれるようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを十分に受け入れることが出来るように居室で一对一で話しをしたり、散歩中に思いを聞いたり、夜勤帯に夜じっくりと傾聴することを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事に、ゆっくり食事したい方は1時間かけて食べられたり、テレビを見たり歌を唄ったり、1日のんびり過ごしたりしている。一人ひとりの希望に沿うように関係者と連携を図り、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から好みの服を持ってきてもらったり、入浴後は美容液を塗ったり、マッサージをしたり、訪問理美容も取り入れ顔そりも好評であり、外出時には本人が好きな服を着たり、おしゃれもしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を楽しみながら、片付けやお茶入れ、食卓拭き、おぼん拭き、またお茶碗洗いなど、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。	おかずは委託業者から届くが、ご飯やみそ汁などはユニット内で作るようにしており、利用者とともに準備や片づけを行っている。米とぎやお茶の用意等、できることは率先して利用者に役割を持ってもらっている。食事の内容については、味付けや温度等、利用者ごとに細かに対応がしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医による健康診断結果も踏まえ、毎日の生活パターン表、分量表などで状態を把握し、状況に応じ家族とも相談の上、栄養補助食品など利用し、体調管理に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯を磨いた後にも職員で細かな部分のチェックを行ったり、毎食後は全員口腔ケア、義歯ケアも行い、口腔内の清潔を心掛けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。入所前紙パンツだった方も入居後に日中は普通の布パンツに移行することも実現している。歩くことが困難な方もポータブルトイレで排泄の習慣を行いトイレでの排泄習慣を作っている。	排泄チェック表を基に、トイレへの誘導や介助を行っている。排泄用品は利用者ごとに使用物品を常に検討しており、おむつ給付が受けられる利用者には手続き等の支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で一人ひとりの排便状況を確認し、水分補給を増やしたり、トイレのたびに腹部マッサージをしたり、医師への相談連携により便秘薬も飲まれているが、出来るだけ自然排便が出来るように心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日行い、好みの洗顔石鹸・化粧水・乳液などを持ってきてもらい、ご自分で着る服も選んでもらっている。また、むくみを取るために足浴や手浴をしたり、入浴中に職員とのコミュニケーションもとれて悩みなどの本音を聞きだせることもある。	入浴の準備は毎日行い、週に2回は入浴の機会が得られるようにしており、希望に応じて支援している。入浴を好まない利用者に対しては、時間や声かけ等を工夫しながら行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、夜間の睡眠状況をみながら、30分間の昼寝をして頂いたり、外気浴、日光浴、布団干、定期的なりネン交換も心掛けている。また、居室の温度や明るさにも気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はいつでも確認できる様にしている。副作用や量についても申し送りを行い、与薬は二人でチェックしている。また、確実に服薬いただくように飲み込み確認のサインと空袋の確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事手伝いや、アクティビティでは本人希望の学習ドリルであったり、塗り絵であったり、手紙を書いたり、本を読んだり、一人ひとりに合わせた。また、玄関先でお茶会をしたりと楽しんでいただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で機会が減少しているが、お花見ドライブなど季節を感じるイベントを実施している。現在でも中庭に季節の植物を植えて、一緒に見に行ったり収穫していただくなど工夫している。	コロナ禍で外食や買い物は控えているが、散歩やドライブは定期的に行い、気分転換やストレス解消に努めている。ドライブでは季節の花の開花に合わせてコースを選定して実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は本人所持の支援もおこなっていたが、現在はご入居の時点で現金管理が困難であり、ご家族や後見人に協力を得て、必要な際に現金を使用できる環境整備をおこなっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により年賀状や行事の写真を同封したお手紙を書かれ、家族も大変喜ばれ、離れている家族からの返信を楽しんでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花、利用者の写真作品を飾り、明るい環境を心掛けている。また、中庭にも花壇や畑があり、四季を楽しんでいただいている。	リビングは、毎月、季節に応じたポスターや絵を飾り、四季を感じられるようにしている。また、ソファ等置いてくつろげるスペースを設けており、利用者はリラックスした雰囲気の中で暮らしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隅や窓辺などを活用し、1人用のテーブル、椅子を置き、暫く座って頂いたり、玄関先で気が合う利用者でお茶をしたり、心地よく落ち着く工夫を心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、今まで使っていたテーブルや布団、枕、テレビなどを持ってきていただき、一人居室でテレビ視聴や音楽を楽しまれたりもしている。	タンスやテレビ、家族写真、飾り物等、利用者の好むものが持ち込まれており、個性を大切にされた部屋の環境作りに努めている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等手すりをつけ安全を心がけている。特に夜間帯は人感センサーを設置し、移動時の安全に気を配っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		